



love's body

art in the age of AIDS

ラヴズ・ボディ—生と性を巡る表現

2010年10月2日(土) — 12月5日(日)

休館日=毎月曜日(但し10月11日は開館、翌12日休館、11月8日は臨時開館) 開館時間=10:00-18:00(木・金は20:00まで)、入館は閉館の30分前まで
 *毎週木曜日はカップル・デイ(カップルのうちお1人が「ラヴズ・ボディ」展を無料でご覧いただけます。チケット購入時に「カップルです」とお申し出ください)
 主催=公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/朝日新聞社 後援=米国大使館
 助成=芸術文化振興基金/財団法人石橋財団/財団法人アサヒビル芸術文化財団/Asian Cultural Council/オーストラリア大使館
 協賛=株式会社ニコン/株式会社ニコンイメージングジャパン/株式会社資生堂/凸版印刷株式会社
 協力=アサヒビル株式会社/京都精華大学情報館メディアセンター/community center akta/ウェスティンホテル東京/TOKYO FM
 観覧料=一般800(640)円/学生700(560)円/中高生・65歳以上600(480)円 *()は20名以上団体および東京都写真美術館友の会会員
 *小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその介護者は無料 *第3水曜日は65歳以上無料

東京都写真美術館 Tokyo Metropolitan Museum of Photography [恵比寿ガーデンプレイス内]

図説:デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ (Untitled (Falling Buffalo)) 1988-89年
 Courtesy of the Estate of David Wojnarowicz and P.P.O.W. Gallery, New York, NY



AA Bronson
 AA ブロンソン(1948-)

Akira the Hustler/Cho Yukio
 ハスラー・アキラ 黒山紀夫(1909-)

Felix Gonzalez-Torres
 フェリクス・ゴンザレス・トレス(1957-1996)

Hervé Guibert
 エルヴェ・ギベル(1956-1991)

Sunil Gupta
 スニール・グプタ(1953-)

Peter Hujar
 ピーター・フジャー(1934-1997)

David Wojnarowicz
 デヴィッド・ヴォイナロヴィッチ(1954-1992)

William Yang
 ウィリアム・ヤン(1943-)



- AA ブロンソン(アンナとヤコブ、2001年2月1日) 2001-02年、作家蔵
- フェリクス・ゴンザレス・トレス(「アンタイトルズ」自然史) 1990年、12名編の一部、東京都写真美術館蔵 ©The Felix Gonzalez-Torres Foundation, Courtesy of Andrea Rosen Gallery, New York
- エルヴェ・ギベル(ヴィラ・メテオ) 1989年、東京都写真美術館蔵
- ハスラー・アキラ(黒山紀夫 (Red String)) 2010年、作家蔵
- スニール・グプタ(ビクラム) 2007年、作家蔵
- ピーター・フジャー(ピー・スイート、ニューワーク) 1985年、ピーター・フジャー・アーカイブ蔵 ©1987 The Peter Hujar Archive LLC, Courtesy of Matthew Marks Gallery, New York
- ウィリアム・ヤン(アラン) 1989-90年、東京都写真美術館蔵

ラヴズ・ボディ

—生と性を巡る表現

love's body

art in the age of AIDS

東京都写真美術館では1998年11月から1999年1月に「ラヴズ・ボディ—ヌード写真の近代」と題した展覧会を開催し好評を博しました。新しい身体表現が出現した1970年代以降の作品に焦点をあて、調和のとれた美しい女性の身体を男性のエロスや性幻想の表象として描く従来のヌード写真を批判的に検証し、生と死と性をめぐる広汎で複雑な身体表現の可能性を探る試みでした。この展覧会では多くの主題が浮上しましたが、その中でもエイズに関する問題提起は重要なもののひとつでした。

今日、世界が共有する問題としてエイズがあります。エイズをめぐる作品は、1980年代から現在まで、特に欧米を中心に非常に多く制作され、これまでの写真や美術のあり方を根本的に問い直す契機となっています。とりわけ「エイズ・パニック」が巻き起こった1980年代後半から90年代前半にかけては、エイズは多くのアーティストの命を奪っただけではなく、エイズをめぐってあぶり出された社会的偏見や差別に対する反応の中から様々な作品が生まれました。エイズを抱えた多くのアーティストがエイズに向き合いながら制作し、この「社会的病」を自分たちの問題として捉え、セクシュアリティや他者表現、身体表象、アートと政治の問題などを新たな表現の可能性の中で考えようとする試みが続けられています。

「ラヴズ・ボディ—生と性を巡る表現」展は、美術や写真のある側面に大きな変化を与えるほどに影響力を持つ、そうした作品の意味を検証し、問い直す試みです。

関連事業

アーティスト・トーク *遠来通訳付き
 AA ブロンソン 10月2日(土) 15:00-
 スニール・グプタ 10月2日(土) 16:00-
 ウィリアム・ヤン 10月3日(日) 16:00-
 会場: 2階企画展示室内
 展覧会チケットの半券(当日消印)をお持ちの上、展示室入口にお集まりください。

スペシャル・イベント「Think About AIDS」[公開録音]

共催=Living Together 計画/TOKYO FM
 朗読会(4HIV陽性者の手記)+ライブパフォーマンス
 日時: 11月8日(月・臨時開館日) 19:00~20:30
 会場: 1階ホール
 対象: 展覧会チケットをお持ちの方
 定員: 190名
 受付: 当日10:00より当館1階受付にて整理番号付き入場券を配布します
 開場: 18:30より、整理番号順入場、自由席
 *豪華ゲストを予定しています。最新情報は美術館URLでご確認ください。
<http://www.syabi.com>

対談「エイズとアート」

張由紀夫×溝口彰子(ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ)
 日時: 10月16日(土) 15:00~16:30
 会場: アトリエT
 対象: 展覧会チケットをお持ちの方
 定員: 70名
 受付: 当日10:00より当館1階受付にて整理番号付き入場券を配布します
 開場: 14:30より、整理番号順入場、自由席

ラヴズ・ボディ 特別講演会

堀江敏幸(小説家、フランス文学者)
 日時: 11月13日(土) 18:30~20:00
 会場: 1階ホール
 対象: 展覧会チケットをお持ちの方
 定員: 190名
 受付: 当日10:00より当館1階受付にて整理番号付き入場券を配布します
 開場: 18:00より、整理番号順入場、自由席

*やむを得ぬ事情により、関連事業を予告なく変更することがございます。最新情報は美術館URLでご確認ください。http://www.syabi.com

フロア・レクチャー

会期中の第2-第4金曜日午後2時より担当学芸員による展示解説を行います。
 展覧会チケットの半券(当日消印)をお持ちの上、展示室入口にお集まりください。



JR恵比寿駅東口改札より徒歩7分。東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩10分。当館には専用の駐車場はございません。お車のご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

東京都写真美術館
 〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
 TEL: 03-3280-0099 URL: <http://www.syabi.com>